

# 病害虫発生予察特殊報第3号

病害虫名 トルコギキョウ根腐病

病原菌名 *Pythium irregulare*

## 1 発生経過と被害

平成7年3月、豊野町のトルコギキョウ栽培ハウスで、生育不良または萎ちょう症状を呈する株の多発が確認された。萎ちょうした株のうち重症株は枯死したが、一部の程度の軽いものは枯れずに生育した。しかし、生育は大きく遅れた。症状はやがて周辺に広がり坪枯れ症状を呈した。その後、この症状は長野市や上山田町でも発生していることが明らかとなっている。

## 2 病原菌の分離・同定

常法により、発病株から病原菌の分離を行ったところ、*Pythium* 属菌と考えられる糸状菌が主に分離された。トルコギキョウに発生する *Pythium* 属菌による病害は根腐病が報告されており、本症状も本病であると考えられたので、接種試験、分離菌の同定を実施した。接種試験では分離菌の培養菌そうを埋め込み接種したところ症状が再現された。

分離菌は通常遊走子のうを形成せず、レモン形及び球形の菌糸のふくらみを多数形成した。また、蔵卵器、蔵精器を形成し、蔵卵器は球形、中間性でまれに1本の突起が観察された。蔵精器は通常1個で同菌糸性、蔵卵器に側着していた。卵胞子は球形で充満または未充満であった。根腐病菌は2種類報告されているが、以上のことから今回の分離菌は、*P. irregulare* であることが判明した。

なお、本病の発生確認は、本県で初めてである。

## 3 病徴と診断

植物体が小さい時は日中、頭を垂れてしおれ青枯れ症状を呈する。症状の激しいものはしおれと回復を繰り返してやがて萎ちょう枯死する。また、軽症の株は生育に従って徐々に回復するが生育自体は大きく遅れ、収量に大きく影響する。大きくなって発病した株では中位葉から下位葉がしおれ、葉枯れ症状を呈した。

発病した株を掘り上げてみると、側根の先端部分の多くが褐変腐敗し、繊維質のみを残しているのが観察された。本症状は本病に特有であり、診断の決め手になると考えられる。

## 4 防除方法

土壌病害であるので、一般的な本ぼの土壌消毒は有効と考えられる。しかし、苗床からの感染も十分に考えられるので、汚染苗を使用しないようにすることが重要である。

本病に対する登録薬剤はないが本菌に対しては有効な薬剤があり、発生ほ場では農業改良普及センターと対策を協議する。

また、本菌は藻菌類に属し水と関係が深いので、排水を良好にし、湛水状態にならないよう注意する。そして、連作による菌密度の上昇が考えられるので、多発ほ場での連作は行わない。